

令和8年度 輪島市立東陽小中学校 前期学力向上プラン

研究主題 主体的に学び、対話を通して自分の考えを表現できる児童生徒の育成

目指す児童生徒の姿

- ・学習課題に対して自ら進んで学んでいる。
- ・友達との交流で問い返しをして自分の考えを深めている。
- ・各種テストでねらいに合った解答ができています。

(1) 現状と課題(R)

児童生徒の課題	現状と要因・根拠となるデータ
課題解決に向けて主体的に活動することができていない。 深まりを求めるための意識が不足している。 理解不足や表現不足で、自分の考えを適切に表現できていない。	[現状と要因] ○根拠をもとに説明することの必要性を理解して学習に取り組める。 ○話し合い活動等の学び合いの場面で、友達と協力し合って活動している。 ○自力でまとめや問題を解くことが定着してきた。 △授業内ではできるようになってきたが、テストの問題では自力で説明することが難しい。 →授業の中で自分の意見や考えを言語化する活動が少ない。 △授業への取り組み方が受け身がちで、主体的な活動・学びにつなげていない。 →児童・生徒が疑問をもったり学びたいと思ったりするような導入・課題設定ができていない。 △学習内容の理解不足や作文の表現不足で、条件等必要なことをふまえて自分の考えを表現できていない。 →学習理解への手立てや、個々への見取りをふまえた働きかけが十分ではない。 [根拠となるデータ] ・前年度学力向上プラン 実施検証・成果検証・目指す生徒の達成状況 ・R7 県評価問題 国語 二 二 (2) (0%) 算数 1 (4) (0%) 5 (2) (33%) ・R7 県評価問題 国語 二 五 (50%) 3 四 (50%) 数学 2 (3) (50%) 4 (2) (50%)

(2) 計画と実行(P・D)

具体的取組	検証項目(検証方法)	検証結果
対話の場面で「TQ ワード」を使って交流させる。	実施検証①「対話の場面で TQ ワードを使って交流させた。」 (教師アンケート) 100% 成果検証②「対話の場面で TQ ワードを使って交流することができた。」 (児童・生徒アンケート) 70% ③「TQ ワードを使うことで、考えを深めることができた。」 (児童・生徒アンケート) 70% ④「対話の場面で TQ ワードを使って交流している。」 (研究授業) 70% ⑤「ねらいを達成している。」 (研究授業) 70% ⑥ 検証問題 (単元末テスト・定期テスト) 60%	% % % % % %

月	検証計画(誰が, いつ)	結果	取組の成果○・課題△
4	☐ ①教師アンケート (全員 30 日) ☐ ②児童生徒アンケート (担任 4 週目) ☐ ③児童生徒アンケート (担任 4 週目)	% % %	○ △
5	☐ ①教師アンケート (全員 29 日) ☐ ②児童生徒アンケート (担任 4 週目) ☐ ③児童生徒アンケート (担任 4 週目) ☐ ④対話の場の設定 (研究授業 米田) ☐ ⑤ねらいの達成 (研究授業 米田) ☐ ⑥検証問題 (教科担・単元末テスト・中間テスト)	% % % % % %	○ △
6	☐ ①教師アンケート (全員 30 日) ☐ ②児童生徒アンケート (担任 4 週目) ☐ ③児童生徒アンケート (担任 4 週目) ☐ ④対話の場の設定 (研究授業 中島) ☐ ⑤ねらいの達成 (研究授業 中島)	% % % % %	○ △
7	☐ ①教師アンケート (全員 17 日) ☐ ②児童生徒アンケート (担任 3 週目) ☐ ③児童生徒アンケート (担任 3 週目) ☐ ④対話の場の設定 (研究授業 長井) ☐ ⑤ねらいの達成 (研究授業 長井) ☐ ⑥検証問題 (教科担・単元末テスト・期末テスト)	% % % % % %	○ △

(3) 検証と改善(C・A)

取組の成果○・課題△	目指す児童生徒の姿の達成状況
○ △	%